

どうしたんですか

2024. 6. 12

幼稚園の先生方は、褒め上手である。子どもたちをよく褒めている。褒めながら、できるようにさせている。一種の職人芸である。

中学校の部活動に行っている。技術的なアドバイスをする。練習をする。できるようになったことを褒める。自分としては、褒めようと意識しているわけではない。選手たちが、できるようになったことが単純にうれしい。選手は、褒められることで、技術的にこれでいいんだと思えるのではなかろうか。そうしないと、がんばって練習はしているが、それがいいのかがわからない。

土曜日に、知り合いの先生が顧問を務める学校が、一緒に練習したいということで来てくれた。いい生徒たちだった。すぐになじんで溶け込んでくれた。普段から、きちんとした部活動をやっているのだろう。顧問の先生は、今でも大会に出場することがあるようなプレーヤーである。

その先生とペアを組んで、生徒と試合をした。試合をしたのは、もう何年振りなのか、わからない。少なくとも10年ぐらいいは経っている。それも練習をせずに、いきなりの試合である。無謀である。だが、楽しかった。

練習が終わる頃に、その先生から言われた。「高澤先生、どうしたんですか」「えっ、何が」「生徒を褒めてるじゃないですか」教え子たちにも、心配されることがある。「先生、どうしたんですか。大丈夫ですか」生徒を褒めると、心配されるというのはどういうことか。それだけ、昔は厳しかったということだろう。自覚はしているが、全く褒めなかったわけでもない。

今は、できなかったことができるようにアドバイスをする。できたら褒める。歳をとってきたからこうなったというわけでもない。昔よりも、さらに専門的なアドバイスができるようになったような気がする。娘が高校時代に、高校の部活動や大会を見ながら勉強したお陰かもしれない。

部活動に行くようになって、どんどん部の雰囲気は変わってきた。みんな、うまくなりたいのである。試合で勝ちたいのである。褒めるのは、技術面だけではない。行動面や態度でもある。褒めることで、できるようにさせている。幼稚園の先生と同じである。あるべき姿、基準を示しているのかもしれない。

「今のは、いいボールだよ」「〇〇さん、今のコースでいいよ」「〇〇さん、いいんじゃない」確かに、顧問をしていた頃は、あまり言っていなかったセリフである。もう少し、褒めていればよかった。生徒たちは、褒めてほしかったのだろう。

褒めるためには、できるようにさせなければならない。できるようにさせるだけの指導力が必要である。指導力、すなわち、それは専門性と人間性である。